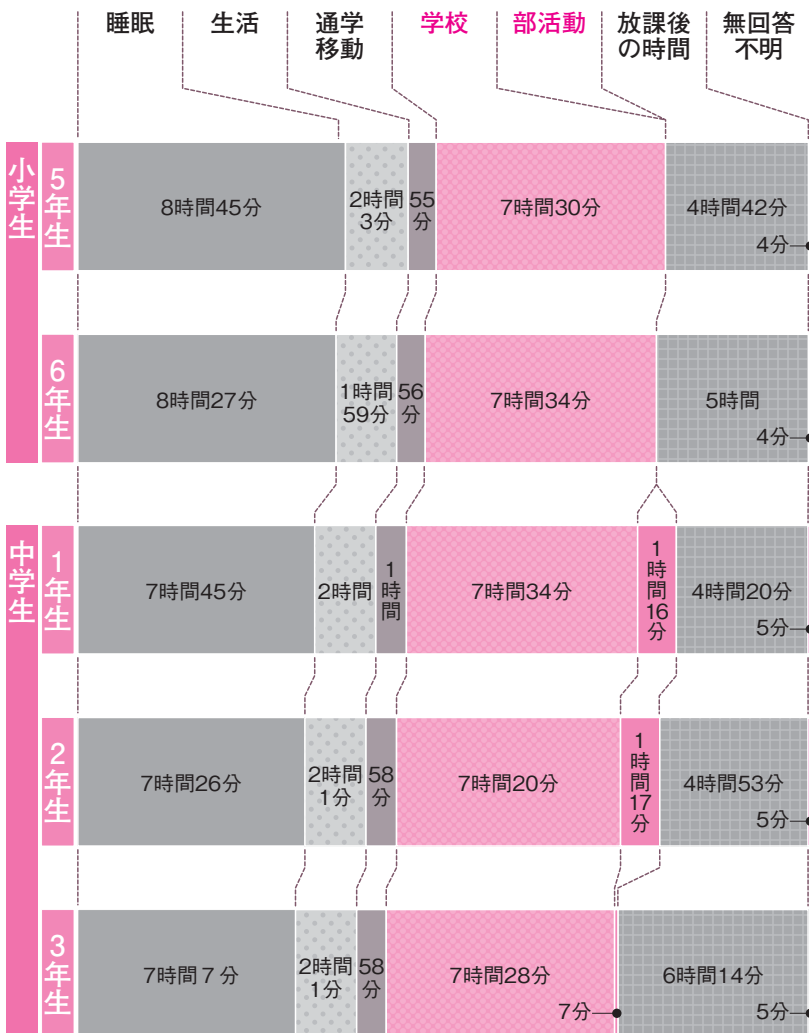


戸惑い悩む中学1年生 調査データから見た実態

小学校から中学校へ進学する時に、子どもを取り巻く生活や学習に関する意識はどのように変化するのか。中学校入学の前後の差に着目して、その実態を見ていく。

1 1日の3分の1以上を 学校で過ごす中学1年生

Q あなたはふだん、次のことを1日にどれくらいの時間していますか。日によって違うときは、平均してだいたいの時間を教えてください。



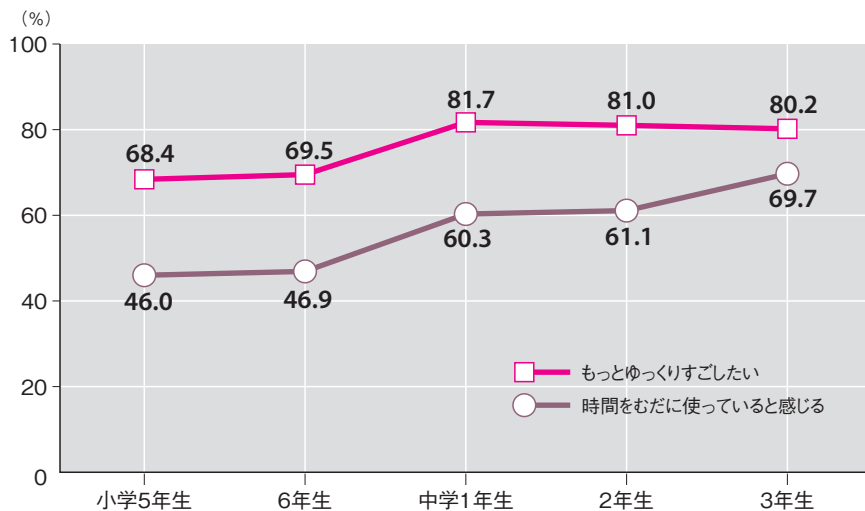
注1)「放課後の時間」は、学校+部活動以外に子どもが自由に使える時間
出典/Benesse教育研究開発センター「放課後の生活時間調査報告書」(2009)

小学5年生から中学3年生までの1日の生活時間の変化を見ると、大きな変化がある時期は、小学6年生から中学1年生にかけてであることが分かった。睡眠時間は、学年が上がるにつれて減り、特に小学6年生から中学1年生にかけて42分減少している。中学生になると、多くの生徒が部活動を始めることで、放課後の過ごし方にも変化が見られ、小学6年生から中学1年生にかけて放課後の時間が40分減少している。部活動がある分、中学1年生が学校にいる時間の合計は小学6年生から1時間16分増えて8時間50分となり、1日の3分の1以上を学校で過ごしていることになる。

「中学生にする」導入期指導の工夫

2 「時間をむだに使っている」と感じる中学生は6割を超える

Q あなた自身について次のことはどれくらいあてはまりますか。



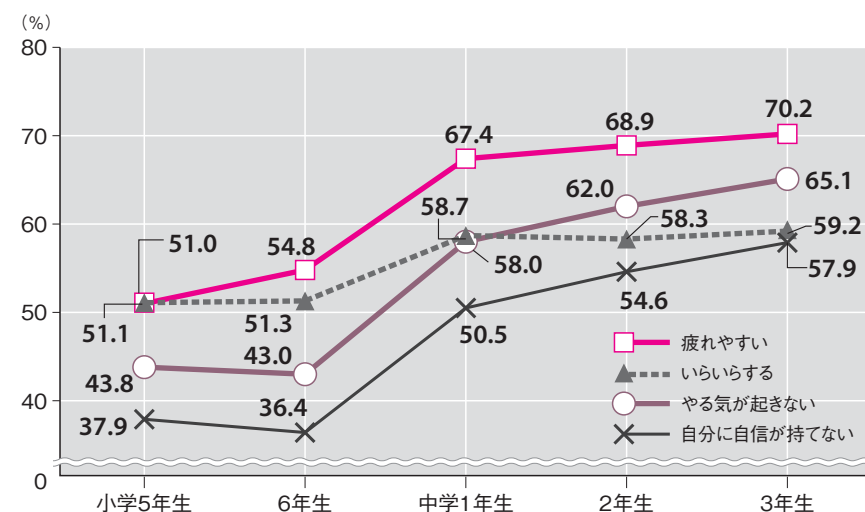
注1) 数値は「とてもあてはまる」+「わりとあてはまる」の%
 出典／ Benesse教育研究開発センター 「放課後の生活時間調査報告書」(2009)

子どもは自分の毎日の過ごし方をどのように感じているのだろうか。

小学6年生と中学1年生の違いに着目すると、「もっとゆっくり過ごしたい」と感じている子どもが69.5%から81.7%に増加しており、中学生になって毎日が忙しくなっている様子がうかがえる。一方、「時間をむだに使っていると感じる」という回答が46.9%から60.3%に増加している。自分の思うように生活を管理できていないことから時間の使い方に無駄を感じているのかもしれない、定期的に振り返りの機会を設けることが必要かもしれない。

3 小6から中1にかけて心身の状態が不安定になる傾向

Q あなたは次のように感じることはありますか。



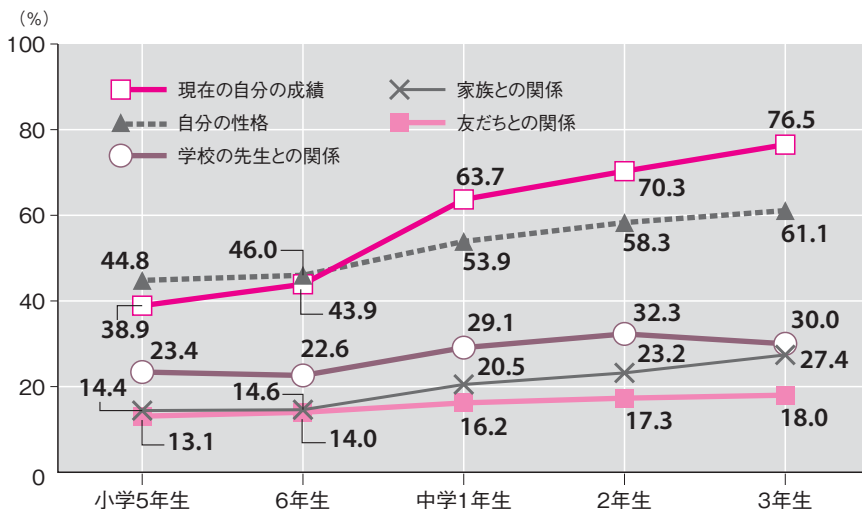
注1) 数値は「とても感じる」+「わりと感じる」の%
 出典／ Benesse教育研究開発センター 「放課後の生活時間調査報告書」(2009)

心の状態にも、特に小学6年生から中学1年生にかけて大きな変化が見られる。

「疲れやすい」(54.8→67.4%)、「いらいらする」(51.3→58.7%)、「やる気が起きない」(43.0→58.0%)、「自分に自信が持てない」(36.4→50.5%)の4項目がいずれも増加している。中学生になって生活環境が変化したこと、発達段階として自我が芽生えてきたことなどが、生徒の心の状態に影響を与え、小学生時代に比べて、心が不安定になっているのかもしれない。

4 自分の成績に不満を感じる生徒は、中1で6割、中2で7割

Q 次のようなことについて、どの程度不満を感じていますか。



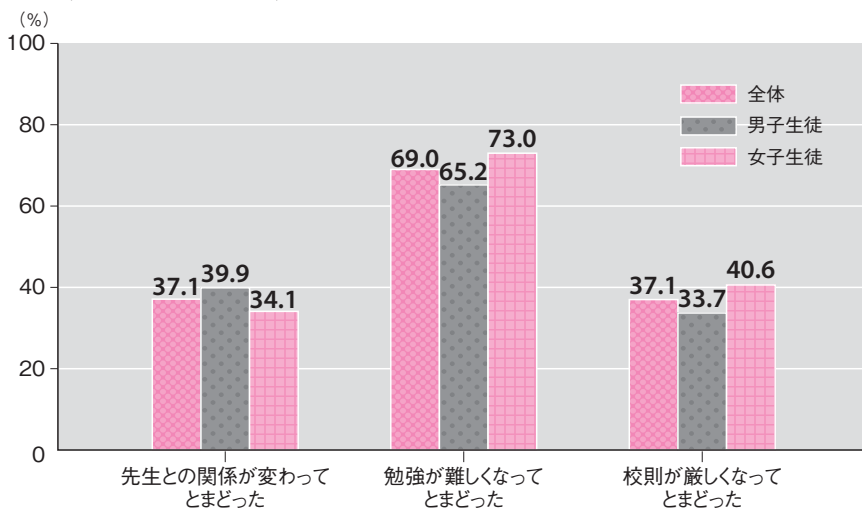
注1) 数値は「あまり満足していない」+「ぜんぜん満足していない」の%
出典/ Benesse教育研究開発センター 「第2回子ども生活実態基本調査報告書」(2010)

小学6年生から中学1年生にかけての満足度の変化をみると、「現在の自分の成績」について、不満足との回答(「あまり満足していない」「ぜんぜん満足していない」の合計)が43.9%から63.7%に増加している。小学校の時に比べて学習が難しくなり、普段からきちんと学習しないとテストの点数が伸びにくくなることがうかがえる。

また、「自分の性格」や「家族との関係」についても、小学6年生から中学1年生にかけて不満足と答えた割合が増加している。「学校の先生との関係」は、小学6年生から徐々に不満を感じる割合が増え、中学2年生でもっとも不満足度が高い。

5 入学時に「勉強が難しくなるとまどった」生徒は約7割

Q 中学校に入学したとき、あなたには次のことがどれくらいあてはまりましたか。(対象:中学校2年生)



注1) 数値は「とてもあてはまる」+「まああてはまる」の%
出典/ Benesse教育研究開発センター 「神奈川県公立中学校の生徒と保護者に関する調査報告書」(2011)

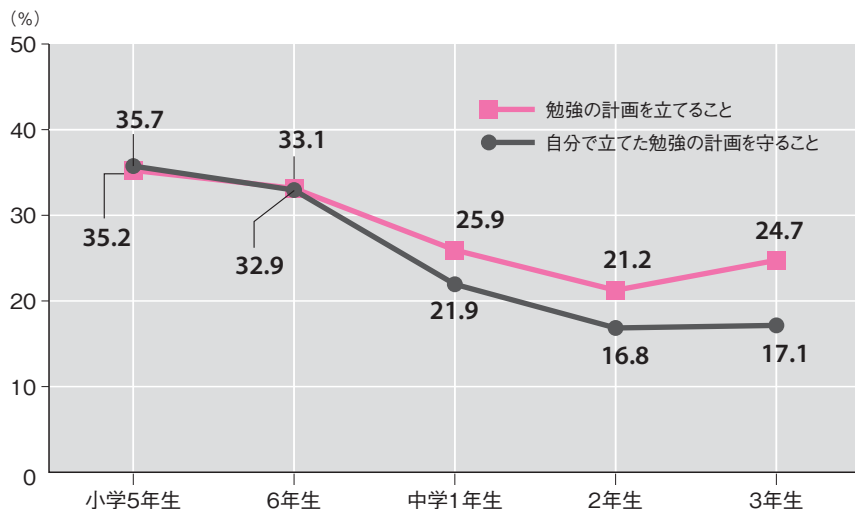
中学2年生に、中学校入学時を振り返って戸惑ったことを聞いたところ、最も多かったのは勉強の難しさであり、約7割が戸惑ったと回答した。先生との関係の変化、校則の厳しさへの戸惑いはそれぞれ約4割だった。

性別での違いを見ると、男子は女子に比べて先生との関係で戸惑いを強く感じ、女子は男子に比べ勉強や校則面でより戸惑いを感じやすい傾向が見られた。

「中学生にする」導入期指導の工夫

6 自分で立てた学習計画を守ることが得意な生徒は、中1で2割

Q あなたは次のようなことが得意ですか。



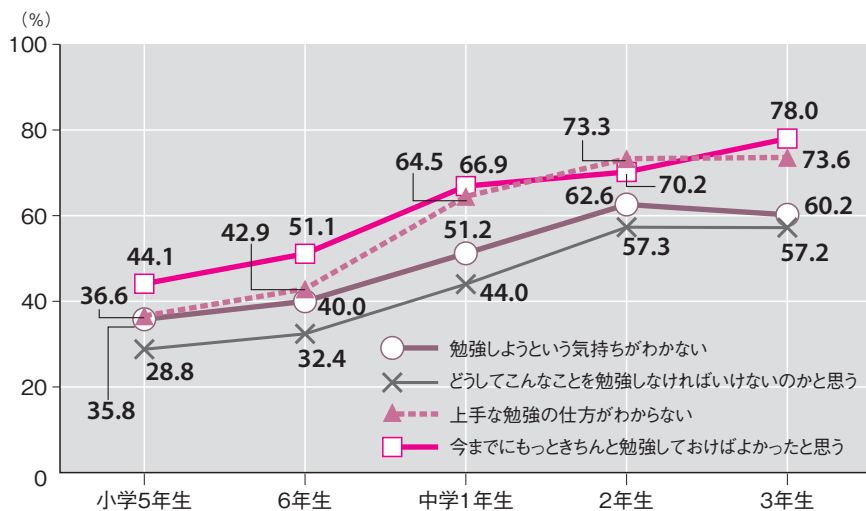
注1) 数値は「とても得意」+「やや得意」の%
出典/ Benesse教育研究開発センター「第2回子ども生活実態基本調査報告書」(2010)

学習計画づくりとその実行について聞いたところ、「勉強の計画を立てること」を得意と回答した子どもの割合は小学5年生から徐々に減少し、中学2年生で最も低く21.2%である。「自分で立てた勉強の計画を守ること」も中学2年生での回答の割合が最も低くなり、16.8%と2割を下回る。

また、中学生になると、学習計画づくりに比べて、計画通りに勉強を進めることが苦手になる傾向が見られる。

7 「上手な勉強の仕方がわからない」は小6から中1にかけて2割増

Q 勉強の取り組み方について、次のようなことがあてはまりますか。



注1) 数値は「とてもそう」+「まあそう」の%
出典/ Benesse教育研究開発センター「第2回子ども生活実態基本調査報告書」(2010)

勉強に対する意識や意欲について、「勉強しようという気持ちがわからない」「どうしてこんなことを勉強しなければいけないのかと思う」などの意識は、小学6年生から中学1年生にかけて増加し、約5割の子どもの割合で見出しにくくなっている様子がうかがえる。

「上手な勉強の仕方がわからない」や「今までにもっときちんと勉強しておけばよかったと思う」という回答は更に高く、6割以上となっている。勉強の仕方を中学入学後に改めて確認することや「今からでも追いつける」という前向きな支援が更に必要とされているかもしれない。